同窓会会報

発行
福島成蹊高等学校
同窓会
福島市上浜町5－10
電話（522）2049
発行人　石井　都
印刷所　㈲三共印刷所

平成26年2月完成 南校舎

会の発展を目指して

同窓会会長　石井　都（昭和41年度卒）

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年六月総会を行ないました。平成二十六年度卒業の新幹事男性三人が颯爽とスーツ姿で会場に現れました。また、昭和三十年度卒業の卓球クラブの方が、クラブの後輩の方達に声をかけ、現役時代と変らぬ若々しさで、ミニクラブの様な賑わいに伝統校の絆の深さを垣間見た思いがしました。皆様も、この場を活用して、ミニクラス会等開いてみてはいかがでしょうでしょう。

アトラクションは、ラジオ福島「おばあちゃんの昔話」でお馴染みの声優、森　和美（昭和二十五年度卒業吉森和子）さんにお願いしました。大笑いの昔話の後に野口英世の母、シカの手紙にホロリとさせられ、方言の持つやさしい響きの心地良さにうっとりと時を過ごし、もっと聞いていたいと、誰もが思ったことでしょう。

ご多忙中の所、快諾して下さった事、感謝しております、ありがとうございました。

役員改選を行ない、会に多大なる力をお借し下さった三名の方がお辞めになり、新役員四名の方を迎え十五名で、伝統校にふさわしい会の運営に、更なる努力を重ねる決意で、スタートをいたしました。

南校舎建設募金を、皆様にお願いしてまいりましたが、昨年二月完成致しました。木のぬくもりに包まれて生徒さん達が向上心に燃え、日々学んでおります。これも一重に皆様の御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。なお平成二十八年六月まで募金を行っておりますので、よろしくお願い致します。

誇り高き母校の同窓会には皆様お一人おひとりの力が必要です。今後とも、一層の御指導の程、よろしくお願いいたします。

同窓会総会に出席して

吉森　和子

（昭和25年度卒）

思いがけずお招きを頂き、拙い語りをさせていただけたこと生涯忘れません。

懐しさの余り一気に卒業期にタイムスリップ。連日演劇コンクールに向け猛ダッシュ。片や和裁の製作は『寝巻』。提出日には間に合わないこと明白。進退きわまっていると「私仕上げてやるよ」と日頃寡黙な上竹トシさんの声。私はクラスメートに助けられて卒業できたのです。

彼女は鬼籍に入りました。

斎藤　ヨシ

（昭和23年度卒）

戦後の混乱期に卒業した私は、同窓会に参加出来たのは、四十五年後の事です。思い出される事は、先生を初め級友と過した十代の日々が人生の中で一番楽しく輝いていたと今でも心に残る大切な宝物です。同窓会に参加する事は、学校の現状を知るばかりではなく、友交を深める大切な場である事を痛感しております。

今後も役員の皆様と協力し合い多くの参加を得て、伝統ある同窓会の繁栄を、心より望んでおります。

佐川　久子

（昭和24年度卒）

わが学びの舎も名もゆかし桃李の花の匂へれば・・・

信夫ヶ丘やあづま球場では、試合の前に両校の校歌が演奏されます。私はスタンドの片隅で心を込めて歌いました。成蹊高校も共学になり、六〇年前には考えられない事でした。アトラクションの吉森先輩は若々しく、楽しい時間が過ぎてゆきました。さて、母校は、立派な校舎、体育館、グラウンド、そして生徒達の輝きはすばらしく、これからの発展を祈念するものであります。

上倉　道子

（平成2年度卒）

昨年、百周年を迎えたことを知り、歴史の深さを感じていたところ、友人の勧めもあり初めて参加致しました。

卒業して二十四年が過ぎてお世話になった先生方と再会して、とても懐しくまた嬉しく思いました。近況を語りながら、高校時代の思い出が甦り楽しい時間を過ごすことができました。

卒業後から現在に至るまでの成蹊高校のめざましい進歩と活躍を知ることができ、とても誇らしく思いました。

西坂　昴文

（平成25年度卒）

この度、同窓会総会に出席して感じた事は、福島成蹊高等学校の歴史や伝統の重みです。在学中は感じる事ができなかった新たな感動でした。

また、同級生や諸先生方とお逢いでき卒業して数ヶ月ですが懐かしく思いました。

総会に出席するまでは多少気負いもありましたが、諸先輩方には心配りをいただき、気負う事なく楽しく有意義な一時を過ごさせていただきました。今後は母校卒業生としての誇りを胸に頑張ります。

長井　佑平

（平成25年度卒）

今回、同窓会総会に出席しまして今までの成蹊の歴史を築き上げてきた卒業生の方々そして先生方にお会いできてとても嬉しく思いました。ついに自分も同窓会に出席するほどになったのかと時の流れを感じております。自分はもはや現役の成蹊高生としての活躍はできませんが、一卒業生として「母校は『成蹊』と言える誇り」を胸に、これからの福島成蹊高等学校の発展を願いまして精一杯頑張りたいと思います。

就任のご挨拶

理事長　**高橋幸七**

本年二月、鈴木前理事長の後任として、学園創立以来百二年の歴史を有する学校法人福島成蹊学園理事長を拝命いたしました、高橋幸七でございます。

前年度の創立百周年記念事業の実行に当たりまして、同窓会の皆様の各種ご支援を賜り、概ねの事業を成功裡に終えることが出来ました。

記念誌の発行と募金事業のみが残されておりますが、本年6月には、その全てを完了する予定です。

今後とも、教職員各位の協力は勿論、同窓会の皆様方のご支援、ご指導をなくして、残されている記念事業を含め、今後の学園運営全般の責任など果たし得ようがありません。

同窓会の皆様のご尽力とご厚情を賜りますよう切にお願い申し上げ、日頃のご活動への御礼と、理事長就任のご挨拶とさせていただきます。

不易流行の継続を

校長　**本田哲朗**

同窓会の皆様方には、常日頃物心両面に渡り多大なるご支援を賜りこころから御礼を申しあげます。一〇一年目を迎え改めて本校の立ち位置を考えて観ますと、本校の教育に寄せる期待をひしひしと感じております。ご存じの様に、グローバル化・多様化がキーワードである今日、世の情勢の変化に柔軟に対応を図れるのは私学の教育以外に考えられないからです。幸い本校には中高一貫教育・高校に於いても普通・特進コース教育とニーズの幅に対応出来るものが揃って居りますので、皆様のご家族の教育も、お預り出来れば嬉しい限りです。何れに致しましても『桃李不言下自成蹊』の体現を標榜し、具現化を目指し教育力の充実を図って参りますので、これからも何卒宜しくお願い申し上げます。

旧役員の皆様 ありがとうございました

前副会長　**小林征子**（昭和35年度卒）

「役員を無事終えて」

母校創立百周年の年に、役員をさせていただき、そしていろいろな行事に参加できましたこと大変感謝いたしております。同窓会のますますのご発表をお祈りいたします。

前幹事長　**羽田きくの**（昭和40年度卒）

学園の式典等々、多くの行事に参列、学びの時間を過ごさせて頂きました。

在任中お世話になりました皆様に、感謝申し上げます。

前書記　**丹野清子**（昭和49年度卒）

成蹊高等学校の百周年という輝かしい年に、同窓会役員として関わる事ができたのは大変、光栄な事であり、貴重な経験をさせて頂きました。

母校の益々の発展を願っております。

福島成蹊高等学校同窓会一般会計決算書

平成25年4月1日～平成26年3月31日

1．収入金額 2,101,396　2．支出金額 1,609,407　3．差引金額 491,989

収入の部　（単位：円）

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
会費	1,296,000	1,288,000	△8,000	4,000×322人
運営協力費	170,160	170,160	0	24年度協力費より
預金利子	500	162	△338	普通預金･定期預金利子
雑収入	300,000	337,000	37,000	総会御芳志･会費等
繰越金	306,074	306,074	0	前年度より繰入
合計	2,072,734	2,101,396	28,662	

支出の部

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	適用
事業費	700,000	597,860	△102,140	総会、桃李祭等
会議費	50,000	69,820	19,820	役員会、幹事会
会報発行費	200,000	189,000	△11,000	会報第20号
協力費	350,000	267,045	△82,955	全国大会祝金、卒業記念品等
交誼費	20,000	14,911	△5,089	慶弔費
通信費	200,000	24,976	△175,024	切手、名簿補助等
旅費	3,000	0	△3,000	
事務費	300,000	445,795	145,795	印刷費、事務用品等
特別積立費	0	0	0	
予備費	249,734	0	△249,734	
合計	2,072,734	1,609,407	△463,327	

特別積立金（平成26年3月31日現在）　5,999,448円　運営協力費（平成26年3月31日現在）88,650円

上記帳簿及び関係書類について監査の結果正確であることを認めます

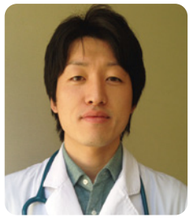
平成26年５月10日　会計監査　杉内　文子

会務報告

平成25年	
4月10日	入学式出席
13日	定例役員会
	会報第19号発送
5月10日	会計監査
11日	定例役員会
6月 8日	墓参(初代･4代校長)定例役員会
23日	同窓会総会開催(母校吹奏楽部演奏)
7月13日	定例役員会･総会反省会
8月27日	桃李祭準備委員会
9月8日	桃李祭
10月12日	定例役員会
10月31日	創立100周年記念式典
11月9日	定例役員会
12月14日	定例役員会
平成26年	
1月11日	定例役員会
31日	新幹事顔合わせ
2月8日	定例役員会
28日	同窓会入会式
3月1日	卒業式出席

一期生の今

平成18年度卒 共学一期生



大橋　英朗

『高校生活と今』

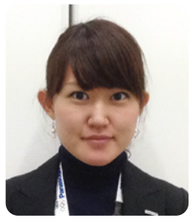
振り返ると、恵まれた環境にいられたことへの感謝の気持ちでいっぱいです。ただ何となく過ごせてしまうこの時期に自分をしっかりとみつめ、なりたい像を思う。そうなれる為には今何をしなくてはならないのかを考え、ひたすらに走る。その手助けをしてくれたのが福島成蹊高校でした。医師となった今もその姿勢は変わりません。ただ今は自分の為だけではなく、目の前にいる患者さん一人一人を思い、走れていることに嬉しく思います。

岡崎　公彦

私は福島県の職員として化学職で採用され、現在南相馬市で働いています。法律関係や文書作成の業務が多く、文系科目があまり得意ではない私は四苦八苦しながら業務をこなしています。高校時代に先生方から文系科目を熱心に指導して頂いたのも良い思い出です。この指導があったからこそ、苦手分野の仕事でも粘り強く業務をこなせているものと感じています。一日も早く復旧・復興が進むよう今後も微力ながら尽力してまいります。

菅野　美幸

私は現在、県内の銀行で窓口の仕事をしております。お客様の様々な節目のお手伝いができ、大変やりがいを感じています。時には上手くいかず、落ち込む時もありますが、いろいろなことを我慢して頑張った高校生活は今でも私に自信をくれます。今の私があるのは、当時応援してくれた家族、勉強合宿ではお風呂にも入らず一緒に頑張った同級生の皆、毎日遅くまで付き合って真剣に私達と向き合って下さった先生方のおかげです。



河野　由衣

朝から晩まで勉強勉強の毎日で、途中で挫けることなく目標に向かえたのは、同じ目標を持った仲間・熱心な先生方・見守ってくれた両親のおかげと思っています。

現在、津田塾大学数学科を卒業し、法人企業向けのSEの仕事をしています。

私の今の目標は、世の中の人々にとって「当たり前」となるシステムを提供することです。

成蹊での三年間の経験を活かし、夢は大きく、さらに、常に挑戦する心を持ち続けたいと思います。

坂田　まりな

高校生活は課題に追われる毎日でしたが、同じ目標を持った仲間と支え合い、日々の勉強・合宿などを乗り越えることで、協調性や思いやりなど社会でも必要な事を学べたと思います。

私は現在、訪問看護師として患者様の自宅に訪問し、看護を提供しています。他職種との情報共有や患者様自身の想いなど、自分一人では解決できない問題ばかりです。その中でも、患者様が少しでも安心して生活できるよう力になれればと思っています。

鈴木　徹

現在、私は地元である福島県伊達市役所で勤務しています。中学生のころから漠然と地元のために働きたいと考えていたので、今の職業に就けて良かったと思っています。

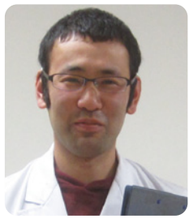
私が今こうして伊達市役所で働くことができているのは、福島成蹊高校での3年間があったからだとつくづく感じています。なぜなら、今の職に就けたことは地元の福島大学に進学できたことが大きく影響しているからです。

もともと積極的に勉強するような人間でなかった私が、福島大学に進学することができたのは福島成蹊高校の先生方のご指導と仲間たちとの高校生活があったからです。だから、福島成蹊高校で学んだ3年間が私の人生のキーポイントであることは間違いありません。

これからも、福島成蹊高校での3年間を忘れず、仕事をがんばっていきたいと思います。

寺島　白龍

男女共学の一期生として卒業し早くも七年が経ちます。私の実家は曹洞宗寺院の為大学卒業後は横浜市鶴見の大本山總持寺にて丸三年の修行を積み、今春末に戻って参りました。今は副住職となり地域の皆様や、お檀家様と共に坐禅会や写経会にて、お相手をさせて頂いたり、有縁の寺院様の手伝いに声を掛けて頂いたりと帰省後も尚、日々修行の一心です。学生時代や修行の経験を糧に皆様から愛され親しまれる住職になれる様、精進して参ります。



星野　輝彦

現在東北大学大学院農学研究科修士二年生です。修士論文では牧草地土壌中の放射性セシウム分布がどのように変化しているのかを調べています。

来年度から福島県職員農業職へ就職する予定です。福島第一原発事故により、福島県内の農業は大きな被害を被っているため、学生時代の経験を活かして福島県の農業の復興に役に立てるように働きたいと考えています。

クラス会

瓶子　幾子（昭和26年度卒）

平成二十五年十月三十一日福島成蹊学園創立百周年記念式典が挙行されました。時を同じくして、私達昭和二十六年度卒業生は、全員八十歳になりました。歳だから、と言わないで友達を誘い合い、集まりましょうと呼びかけたら、今が青春とは謂わないが元気な十三名が集まったのです。

場所は飯坂青葉旅館。女将さんが私達に合わせて、椅子式、ご馳走は二十五種自然食を小鉢に盛り付けてありました。みんなに喜ばれました。激動の終戦後、成蹊女学校に入学、新制高校卒業、宮町から上浜町運動場まで歩いたことなど、そして今は後期高齢者になったことやら話は続いたのです。一夜明けて、朝刊に成蹊学園百周年開催と報道されました。この日を選んで集まったことは、正解でした。遠方からやって来た友達は、タクシーで学園高校と中学校校舎を見て廻り帰路に着いたのです。

母校の益々の発展を祈ります。

小室　志穂（平成6年度卒）

ソフトボール部の監督、菅野治先生をお招きし二十年ぶりの再会が出来ました。

卒業して以来、感謝の気持ちを伝えておらず、申し訳ない気持ちでいましたが、再会する事が出来、感謝の気持ちを伝えられ、本当に嬉しい、楽しい、そして涙ありの会になりました。治先生に、ご指導いただき、そしてこのメンバーと高校生活を目一杯楽しめて、感謝しています。

今度は、治先生と私達の両親も一緒にまた再会したいです。

穴澤　あすか（平成18年度卒）

一月三日に一期生の同窓会が行われ、約三十名が集まりました。遠方に住んでいる友人も多く、これだけの人数が集まった同窓会は久し振りでした。しばらく会っていない人もたくさんいますがSNSを通して繋がっていると思っていました。しかし顔を見て直接会話をすることで、ネットでは味わえない喜びを感じ、元気を貰いました。

このような繋がりを今後も大切にしていきたいと感じています。また、お忙しい中参加して下さった先生方に改めて感謝申し上げます。

高橋　宏佳（平成24年度卒）

福島成蹊高校特進コース第七期の同窓会に先生と卒業生を含め、六十名が集まってくれました。卒業以来会っていない人がほとんどでしたが、皆二年前とあまり変わっておらず、懐かしい気持ちになりました。久しぶりに会う先生や友人との話は尽きず、楽しい一時を過ごすことができました。特進で過ごしてきた三年間は濃く、卒業してからもつながりが多いので成蹊で過ごせてよかったです。またこのような皆で集まる機会を持ちたいと思います。出席してくれた皆さんありがとうございました。

平成二十六年度進路状況

進路指導部部長　増子　裕一

今年度の入試は十八歳人口が前年より二万人増加し、浪人生が昨年比八十八％に減少し現役占有率の高い入試となりそうです。数学・理科は新課程入試に移行し、センター試験では複雑な実施方法となりました。

本校においては新課程入試に向けて準備を進めてきましたが、国公立大学のＡＯ・推薦入試においては苦戦を強いられました。しかし、福島大学には三名が合格し、今秋スーパーグローバル大学牽引型校に採択された会津大学に三年ぶりに推薦で合格することが出来ました。慶應義塾大学環境情報学部への合格は二年連続です。また公務員では、東京警視庁、福島県警察官に合格者がでました。就職内定率一〇〇％は八年連続で達成する見込みです。

今後は一般入試が本格化してきます。私立大学では大きく広がっているインターネット出願や、グローバル化の影響、理科二科目や三科目受験の負担増加など、入試の環境も年々大きく変わっています。その中でも本校生には桃李の精神の下で培った力を十分に発揮し、合格の二文字を掴み取ってくれると期待しています。

平成26年度 進路状況

平成27年2月13日現在（一部の学校のみ記載）

国公立大	5名	福島県立医科大医学部、福島大学3名、会津大
文部科学省管轄外の大学校など	10名	防衛大学校8名、航空保安大学校、海上保安大学校
私立大学	224名	慶應義塾大、明治大、国際基督教大、中央大3名、成蹊大1名、成城大2名、東京女子大1名、獨協大、明治学院大、二松学舎大2名、日本大13名、東洋大、駒澤大3名、専修大4名、東京薬科大、武蔵野大10名、日本獣医生命科学大、国際医療福祉大10名、東北薬科大3名、東北学院大24名、東北福祉大3名　ほか
短期大学	20名	山形県立米沢女子短期大学、福島学院大学短期大学部5名、桜の聖母短期大学5名、郡山女子大学短期大学部2名　ほか
看護医療専門学校	10名	大原看護専門学校2名、太田看護専門学校2名、福島看護専門学校、福島県立総合衛生学院　ほか
専門学校	36名	東北保健医療福祉専門学校、郡山健康科学学院、国際ビューティーファッション専門学校　ほか
就職内定者	12名	警視庁、福島県警察官、（株）いちい、アイテック（株）、日立オートモティブシステム（株）　ほか

平成25年度 進路状況

（一部の学校のみ記載）

国公立大	48名	一橋大、東北大、電気通信大4名、埼玉大3名、新潟大5名、帯広畜産大1名、宇都宮大1名、茨城大1名、岩手大3名、弘前大1名、山形大4名、福島大10名、福島県立医大1名、首都大学東京、高崎経済大、宮城大、会津大2名、新潟県立大2名、岩手県立大2名、岩手県立大、秋田県立大2名、山形県立保健医療大、愛知県立芸術大
文部科学省管轄外の大学校など	13名	防衛大学校9名、防衛医科大学校、航空保安大学校、水産大学校、海上保安学校
私立大学	377名	慶應義塾大2名、東京理科大、明治大6名、中央大9名、青山学院大3名、法政大6名、成蹊大6名、成城大4名、東京女子大2名、日本女子大2名、東京薬科大、日本獣医生命科学大、昭和大、日本大25名、東洋大5名、駒澤大5名、専修大5名、国際医療福祉大20名、東北薬科大、東北学院大16名、東北福祉大6名　ほか
短期大学	42名	会津大学短期大学部3名、山形県立米沢短大、福島学院大学短期大学部11名、桜の聖母短期大学14名、郡山女子大学短期大学部2名　ほか
看護医療専門学校	12名	東北大学歯学部歯科技工士学校、大原看護専門学校4名、福島看護専門学校2名　ほか
専門学校	50名	福島県農業総合センター農業短期大学校、テクノアカデミー浜職業能力短期大学校、郡山情報ビジネス専門学校3名　ほか
就職内定者	11名	福島市職員、福島県警察官、自衛隊一般曹候補生、（株）ニッテク、（株）全日警　ほか

キャンパスライフ

東北大学工学部

小野　謙人（平成25年度卒）

私のキャンパスライフは、勉学をはじめバイトや部活、ゼミなどでとても充実しています。これらのことをかけもちしてこなすのは大変ですが、高校時代に培った地力のおかげか、どの活動も手を抜くぬくことなく熱中して取り組めています。これから先、より主体的に活動し、さらに密度の濃い学校生活にします。

山形県立保健医療大学 保健医療学部

桂　彩矢香（平成25年度卒）

大学生活も半年が過ぎ、専門的な学習では初めて見聞きする物事に興味や関心を持つことが楽しく、更に自己学習を通してより理解を深めています。また、信頼し助け合える友人や頼れる先輩方と元気に楽しい毎日を送っています。充実した環境で学習できる事に感謝しながら、目標に向かって努力していきたいと思います。

在校生の活動状況について

特別活動部部長　鈴木　祥之

以下において、27ある本校のクラブの主な活動内容と大会成績を紹介します。まず文化系クラブでは、自然科学部が高校生バイオサミットで審査員特別賞を受賞、美術部・書道部は二月中旬に成蹊展を予定、ＪＲＣ・ＩＡＣは多様なボランティア活動で積極的に活躍し、吹奏楽部は県コンクールで銀賞を受賞、その他のクラブもそれぞれの分野で日々盛んな活動を行っています。次に運動系クラブでは、卓球部が県総体県北地区大会で学校対抗第三位、県大会に多数の選手が出場しています。男女バスケットボール部は県総体県北地区大会で上位入賞を果たし、ソフトボール部は県新人大会でベスト8、テニス部はＩＨ地区予選学校対抗で上位入賞し県大会に多数出場しています。野球部も強豪校相手に善戦を続けています。サッカー部は全国高校選手権予選で三回戦進出、バトミントン部はＩＨ地区予選で男子団体が第三位となっています。水泳部はＩＨ全国大会に七名が出場し、東北新人大会でも福島県勢初の男子団体総合優勝を成し遂げています。

クラブ紹介

演劇部

顧問　福田　和久

伝統ある本校の演劇部も共学化以降大きな変化を遂げました。それは何といっても今年度男子部員が9名、女子部員が6名となり、ついに男女比が逆転したことです。特に、本格的に複数の男子部員がキャストとして出演するようになった現3年生の初演である「ジャージー家族」という作品は、成蹊演劇部の大きな転換点となる作品でした。また今年度のコンクールも男子2女子2というキャストの作品「居場所」に挑戦しました。今後も更に脚本の読み込みや基礎練習の反復、大道具制作等、納得いく舞台作りに励みたいと思います。

家庭研究部

顧問　三谷　尚世

現在、家庭研究部は3年生7名、2年生17名、1年生4名の計27名で活動しております。その中には男子も4名おります。活動内容は調理実習が中心です。5つの班に分かれて、班ごとにメニュー決め、材料の買出し、調理、試食を行います。また、新入生歓迎会、ハロウィーン、クリスマス、そして3年生を送る会では部全体で協力して同じメニューに取り組みます。ちなみに、今年度のクリスマス会では『鶏の丸焼き』を作りました。

本校の調理室はかつて家政科があったこともあり、調理器具や食器等も素晴らしいものが揃っている大変恵まれた環境に我クラブはおります。昨年度の桃李祭ではクッキーを２０００枚焼き販売したところあっという間に完売するという盛況ぶりでした。来年度の桃李祭でも手作りお菓子の販売を予定しております。卒業生の皆様にもぜひ足を運んでいただければ幸いです。

バレーボール部

顧問　藤田　大策

バレーボール部は、「県総体ベスト8」を目標に、選手・保護者・指導陣が一丸となって日々活動をしております。昨年度より外部コーチを招き、専門的な指導も充実してきました。

直近の大会としては、9月に開催された東北私学選手権大会に出場し、全国大会出場校と争うという貴重な経験をしてきました。しかし、12月に行われた新人戦県北地区大会では、県大会出場をかけた試合で敗れるという苦い思いを味わいました。

現在は今年5月に開催されるインターハイに向け一足早く走り出しております。ご支援して頂いたすべての方々に感謝しながら励んでいきたいと思います。

陸上競技部

顧問　菊地　忠

陸上競技部は、男子35名・女子17名で活動しています。全国高校総体には9年連続で出場しています。今年の県高校総体では男子が4年連続総合優勝、全国高校総体（山梨）には6種目16名の出場を果たすことができました。

陸上競技は個人の能力の強さが求められますが、福島成蹊高校陸上競技部では、部全体が一丸となることを大切に考え、1つのチームとしてお互いに刺激し合いながら目標達成に取り組んでいます。「凡事徹底」「分相応」を心がけ、常に前年度の成績を上回ることを目標とし臨んでいきたいと思います。

このように活動が出来ますのも、同窓会の皆様をはじめ、多くの方のご支援ご理解をいただいたおかげと思っております。心より感謝申し上げますとともに更なる高みを目指し精進してまいりたいと思います。

校歌

作詞　坂内　萬
作曲　古関　裕而

わが学び舎の
名もゆかし
桃李の花の
匂へれば
ものいはねども
慕ひくる
かげやこみちと
なりぬべき

金剛石の
みさとしに
阿武隈川の
よどみなく
進みゆく世に
遅れじと
いそしむ技の
楽しさよ

新幹事

一組	菊地	里奈
	橋本	倫明
二組	佐藤	大地
	鈴木	俊祐
三組	福地	聡流
	千葉	早貴
四組	板橋	加奈
	伊藤	彰真
五組	柳沼	藍
	三浦	慎之介
六組	髙野	未萌
	中里	茜理
七組	青木	柚
	味戸	三佳
八組	鈴木	那奈
	田原	心也
九組	大橋	佳奈
	南	春香
十組	狗飼	壱成
	吉田	萌

新役員

名誉会長
渋谷スズイ（昭和30年度卒）

顧問
丹治　リン（昭和21年度卒）
益田　幸子（昭和28年度卒）
上枝　治代（昭和22年度卒）
斉藤　ヨシ（昭和23年度卒）
浅野　良子（昭和36年度卒）
須田カヨ子（昭和41年度卒）
小林　征子（昭和35年度卒）

会長
石井　都（昭和41年度卒）

副会長
関根　綾子（昭和55年度卒）

会計監査
増沢　ナミ（昭和39年度卒）
杉内　文子（昭和54年度卒）

会計
高野　豊子（昭和42年度卒）
矢吹はる香（平成9年度卒）

書記
本田　文子（昭和47年度卒）
佐藤　文惠（昭和48年度卒）

幹事長
山科　直枝（昭和53年度卒）

常任幹事
大関　昭子（昭和48年度卒）
渡邉八千代（昭和48年度卒）

事務局
中島　千代（昭和39年度卒）
菊地美和子（昭和55年度卒）
渡辺美喜子（昭和55年度卒）
斎藤　綾子（昭和61年度卒）

事務局だより

会報21号は昭和38・48・58・平成6・11・18・25年度卒業の皆様に送付いたします。今後も卒業年度を追って順次送付する予定です。皆様にご協力いただきました運営協力費は会報送付等に使わせていただいております。引き続きご協力お願いいたします。

また、クラス会開催の際は、名簿を事務局に提出して下さい。通信費として二千円を補助いたします。

平成27年度 総会のお知らせ

- 日　時／平成27年6月21日（日）午前10時30分～
- 場　所／エルティ ウェディング・パーティ エンポリアム
- 内　容／総会 懇親会（アトラクション・吹奏楽部）
- 会　費／4,000円
- 問合わせ先／福島成蹊高等学校
  同窓会事務局 TEL 024-522-2049

～この場を利用してミニクラス会等を開いてみませんか？～

南校舎建設募金状況について

南校舎建設募金に対しましては、皆様方から多大なるご寄付を戴き感謝申し上げます。平成25年2月から募金活動が開始されました。現在までの中間報告をいたします。

なお、平成28年6月まで行っております。引き続きご協力よろしくお願いします。

募金額実績（平成27年1月20日現在）

募金目標額	五、〇〇〇万円
募金実績	四、〇四二万円
同窓会目標額	五〇〇万円
同窓会実績	四八四万円
同窓会募金件数	（二一一件）

お知らせ

福島成蹊学園理事長が代わりました。平成27年1月31日㈯鈴木信也理事長が勇退され新理事長に高橋幸七氏が就任されました。

退職される先生方

教諭　菅野　治
教諭　小檜山　紫織

編集後記

今回始めて担当させていただき発行することが出来ました。同窓会の皆様方のご意見ご要望を事務局にお寄頂ければ幸いです。よろしくお願いします。